

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の視点に立った理念を作成し、日々、目に入るよう、フロア・休憩室・トイレ等に提示をしながら、意識して取り組めるように心掛けている。	地域に密着した生活を送ることを取り入れた、事業所独自の理念が作成されています。日々目に付くよう、各ユニット・職員用トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、ミーティングでも確認・検討の機会を設け、理念の実践に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の広報を回覧させて頂いたり、“ほっとあがの広報”やお便り等の案内を出させて頂いたりしながら、地域の祭りに参加したり、地域の方々より、クリスマス会等に参加して頂いたりしながら、交流を図っている。	2ヶ月に1度は事業所広報を地域に回覧したり、ホームのクリスマス会やありがとう会には地域の方にも参加していただいています。また、地域の子供会から野菜を頂いたり、小学生や中学生のボランティアにも来て頂くなど地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバン・メイト養成研修に参加等を通じ、認知症の人の理解や支援について、地域に発信できるような研修等を実施できるよう、自己啓発している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	課題や問題点等、会議の中で相談させて頂きながら、頂戴した意見を職員に周知徹底したりして、今後のサービス向上に活かせるよう、心掛けている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表に出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取り組みがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所福祉課・高齢者相談室長の方に参加して頂き、市の現状等や意見を頂戴したりしながら、協力関係を築いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。また、毎月入退去状況を報告し、相談・協力ができる関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しない事を基本としているが、転倒等危険のある方には説明し、理解を頂きながら、ベッド柵や布団に鈴や呼び鈴等を使用している。	ご家族の要望でやむを得ず4点のベッド柵をご利用されている方もいますが、玄関の施錠も夜間のみとしているほか、職員会議や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己学習や、研修会参加等で虐待の防止について学びながら、防止に努めている。	身体拘束同様に職員会議や新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加して学ぶ機会を作りながら、相談については随時、応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において、重要事項書類を説明させて頂き、その後、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時、座談会を設け、意見を頂戴している。又、面会時の家族との会話や意見を、今後活かせるように努めている。	年に1度、ご家族同士の座談会を行い、ご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、ご家族には面会時のほかクリスマス会やありがとう会にも参加してもらい、意向を確認する機会も設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを大切にしながら、意見が言い合える環境作りを心掛けている。又、年2回の個別面談も大事にしている。	毎月のユニット会議や年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実践したり、本社会議等で管理者が報告したり、代表者自らが面談を行ったりして、環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、外部研修を推奨しつつ、社内研修も各レベル・勤続年数に応じ、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内・社外研修への参加や、外部実習生来所を通じ、施設・各職員のサービスの質の向上及びレベルアップを図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃の会話の中から、本人の要望・悩み等をお聞きしたり、話し易い環境作りを図りつつ、支援させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等の会話の中から要望・悩み等をお聞きしたり、御家族様が意見の言い易い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様と御家族様の意見・要望を尊重しつつ、サービス担当者会議で必要としている事を話し合ったりして、他のサービスにも活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の出来る事・得意な事を把握し、残存能力を生かせるよう、努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に行事に参加して頂いたり、お出掛けの機会を設けたりしつつ、面会時を中心に報告・連絡・相談をしながら、関係を密にしていけるよう、心掛けている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1回広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のクリスマス会やありがとう会に参加して頂いたり、ご利用者と一緒に自宅への外出や外食に出かけるご家族もおり、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会できる環境・雰囲気作りを心掛けたり、手紙・電話・年賀状のやり取りの支援をしながらから関係を保てるよう、努めている。	センター方式を採用し生活歴をより把握するようにしており、知人の方に面会に来て頂いたり、ご利用者の要望に応じて出身地域にドライブに出かけるご利用者もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業・レクリエーション等を通じ、関わりを持って頂きながら、利用者様同士が声を掛け合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、御家族様がボランティアに来て下さったりして、利用者様と交流を保たれている方々もおられ、今後も関係を大切にしていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様の思いや希望・意見に耳を傾け、御家族様とも面会時等にお聞きしたりしながら、支援に努めている。	ご利用者やご家族からの意向も面会時等で確認するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人様・御家族様からお聞きする他、センター方式の記入や、利用されてきたサービス機関の情報記録等から、把握に努めている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。	調査時点で生活歴の把握ができていない方もいましたので、確認されることを期待します。また、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加更新されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の生活を個人記録に記録し、心身の状態についても、観察を怠らず、特変があった場合には特記事項に記入したり、職員間の申し送りや情報共有しながら、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の全体ミーティングにて、利用者様の今後の課題や可能性・対応について、意見を出し合っている。お互いの意見を傾聴しながら、介護計画作成にもつなげている。	毎月行われている全体ミーティングにおいて各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。半年に1回の期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	介護計画については一人ひとり、その時点にそった個別具体的な介護計画を作成するとともに、サービス担当者会議にはご家族にも参加して頂き、介護計画を検討されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の状態や様子を個人記録や申し送り(ノート)で確認しながら、情報を共有し、全体ミーティングを中心に十分に話し合い、介護計画の見直しにもつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までは対応していなかったサービスでも、職員間で話し合い、必要となった場合は、御家族様に相談・確認し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	クリスマス会等の行事でのお手伝い、外出時のボランティアなど協力して頂いている。又、本年度も阿賀野市文化祭へお出掛けした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、各利用者様の状況・状態を適切にお伝えできるよう、かかりつけの医療機関に、医療連携表にて状態等を記入し、支援している。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面にてご利用者に関する情報伝達が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師に各利用者様の状態等をお伝えし、指示を頂きながら、(定期)受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的にお見舞いをし、状態を把握しつつ、ソーシャルワーカーとも、入退院後の状態・対応等について、連携を図れるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度期・終末期の介護については、ご家族様へ現状を報告し、ホームとしてできる対応をお伝えしながら、話し合いを行っている。また、訪問看護師も活用しながら、支援していきたい。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要なれば最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でもその方針は共有されています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを設置し、年二回、避難訓練を行っている。また、今年度、消防署に依頼し、普通救命講習も行った。	職員は阿賀野市消防署で普通救命講習を受講し、AEDの使用方法や人工呼吸について学んでいるほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への周知・徹底もされており、事故発生時にも適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回行っている。地域の方にも声を掛けつつ、どの職員でも対応できるようにマニュアル作りを目指している。	ホームにおいて、年2回の日中の火災を想定した避難訓練を実施しておりますが、地域の方には参加していただいております。夜間を想定した訓練は行われておりませんでした。	災害時に適切な避難ができるように、夜間を想定した避難訓練や避難訓練に地域の方にも参加して頂き、協力体制を整備されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドに十分に配慮しながら、声のトーン・声掛け・対応を行っている。また、ミーティング時に接遇について、振り返ったりもしている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、職員の接遇についても振り返る機会を持ち、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・食事・行事参加・お出掛け時等に、希望をお聞きするように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体という事を念頭において、お一人お一人のペースを尊重できるよう、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様に合った洋服が選択出来るように心掛けている。又、意思疎通が難しい方には、職員と一緒に選ばせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお茶入れ、お膳拭き等、各利用者様がができる事をして頂いている。	ご利用者にも、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、食事の片付けも協力してもらっています。また、ご利用者の要望に応じてハンバーガーを食べに出かけたり、回転寿司に出かけたり、ホームの畑で育てたオクラ、なす、ししとう等の収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分チェック表にて、一日の食事量・水分量を把握しながら、盛り付け・味付け・具材の大きさ等の工夫や、水分が少ない方には、こまめに声掛けや、声掛けの工夫を行い、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には、声かけにて行って頂いている。できない方には見守り介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分チェック表で、各利用者様の排泄パターンを把握しながら、排泄の意思表示が難しい利用者様には食事前後等、こまめに声掛けを行ったりして、支援をしている。	全てのご利用者に対して水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等、食物繊維の多い物を食事に取り入れつつ、こまめに声掛けをして、水分摂取をして頂いている。又、体操等、体を動かす場の設定も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合にならないように、各利用者様の気分や体調・希望に合わせてながら、支援している。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。	調査時点で入浴を嫌がるご利用者への対応について、ケース記録に記録されていないところもありましたので、職員間で記録方法について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活習慣やパターンを把握しつつ、眠れない時には話を傾聴したり、安心できるような声掛けをしたりして、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用の把握に努め、誤薬や飲み忘れがないよう、服薬の確認や、服薬前後の薬のセットの確認の徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の生活歴を生かしつつ、趣味や得意事の把握に努め、充実した生活につながるよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望や要望・体調に応じて、お出掛け出来る時に掛けるよう、時にはボランティア様や御家族様にも御協力をお願いしながら、外出の機会を設けている。	ご利用者の誕生日には担当職員とドライブに出かけたり、季節に合わせてお花見やあやめ見学、ぶどう狩りや紅葉見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者様の希望や管理能力に応じて、御家族様にも相談しながら、所持できる方には所持できるよう、見守りの徹底を図りながら、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望にそって、電話を掛けたり、手紙のやり取りができるよう、御家族様にも相談しながら、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう、TVの音量・室温・清潔面等には十分に配慮し、季節の植物や、壁画も飾ったりして、季節感のある生活が送れるよう、工夫をしている。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じる花やご利用者の習字の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者様の生活スタイルや趣味にも配慮しながら、自由に生活ができるよう、心掛けしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が今まで使用していた物や、馴染みの物を居室に置いて、安心して生活ができるよう、御家族様にもお願いしたりしている。	ご利用者の愛用していたラジオや人形などの持込みや写真の掲示など、一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かせるよう、“できる事”はして頂きながら、環境の整備等、安全面には十分に配慮している。		